

景気動向調査

全産業 DI 値、製造業一部改善も 物価高騰で先行にさらなる不安

令和4年7～9月 中小企業景況調査 結果報告書

当所では、藤枝市内小規模事業所の経営動向を把握するため、四半期ごとに景況調査を実施しています。

令和4年7～9月期の調査がまとまりましたので、概要を報告します。

※本調査は、製造業・建設業・卸売業・小売業・サービス業の5種200社を対象に行っています。今回の回収率61.5%

【主要な表現について】

○業況判断：調査対象企業が自らの業績に下した判断。

○DI値：(増加・好転と回答した割合) - (減少・悪化と回答した割合) 悪化すればするほどDI値は▲(マイナス)になります。

管内全産業の業況

業況判断の動向(表1)：全産業での業況は、DI値▲30.0で前回(2022年4月～6月)より3.7ポイント悪化。建設業前回▲17.4ポイントから今回▲18.2ポイント、製造業▲25.0ポイントで27.2ポイント改善、卸売業▲20.9ポイント悪化、小売業▲6.1ポイント悪化、サービス業▲16.4ポイント悪化しました。

全産業売上高の推移：前回▲17.4ポイント(2022年4月～6月)から4.7ポイント悪化しました。

小売業39.1ポイント悪化、その他産業においてもマイナス傾向を示しました。

全産業資金繰りの動向：前回▲16.0ポイント(2022年4月～6月)から6.8ポイント改善しました。

建設業4.8ポイント改善、その他産業はマイナス傾向を示しました。

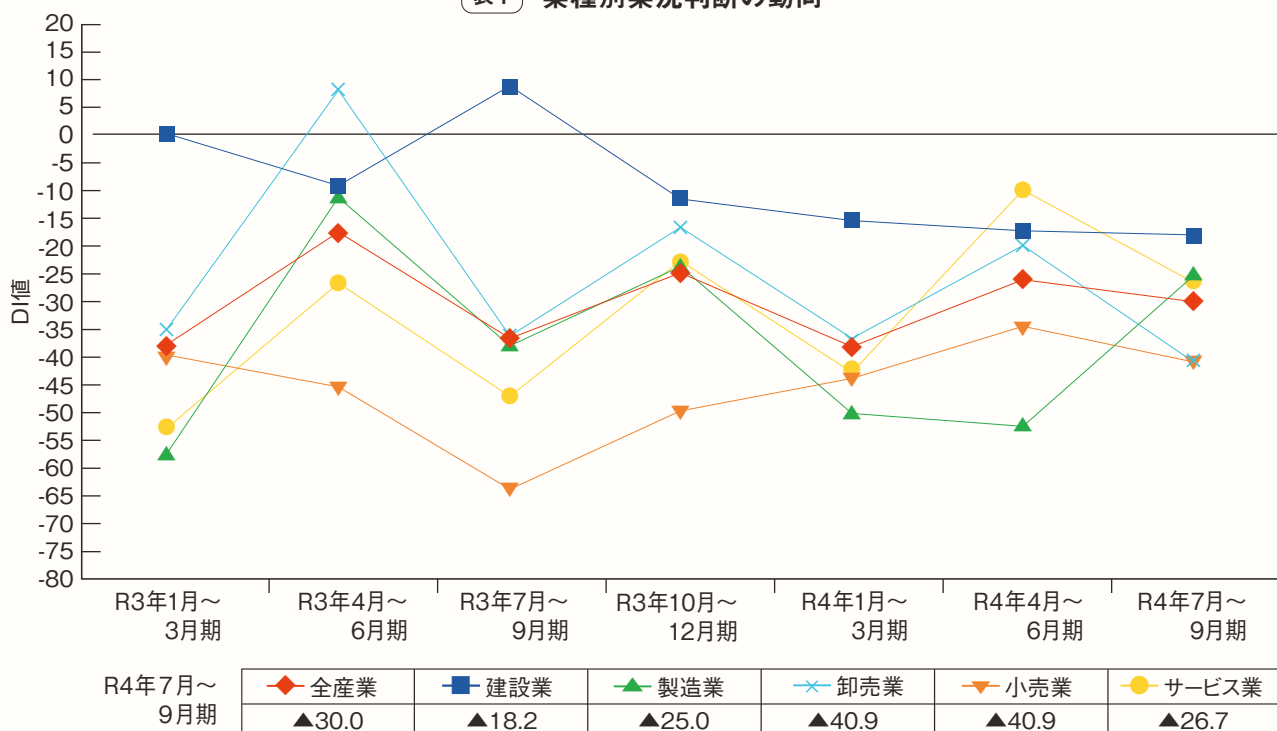
全産業採算の動向：前回▲38.7ポイント(2022年4月～6月)から0.5ポイント悪化しました。

卸売業52.2ポイント悪化、その他産業においてもマイナス傾向を示しました。

全産業雇用人員の動向：全産業雇用人員の動向：前回▲2.6ポイント(2022年4月～6月)から5.3ポイント悪化しました。

卸売業を除く産業で人手不足感が強まりました。

表1 業種別業況判断の動向



問合せ先 藤枝商工会議所 経営支援課 TEL: 054-641-2000